

### 【保健学研究科(博士前期課程) ディプロマ・ポリシー】

保健学研究科は、目標理念として「ヘルスプロモーションの実践と確立」を掲げています。この目標理念を達成するため、博士前期課程の教育理念として「全人的ケア」及び「チームケア」を据え、高度専門職業人を育成し、専門性の確立に貢献できる基礎的研究能力を養成し、社会の要請に応えます。具体的には、以下のような人材育成を目指します。

- 保健学の実践を通してヘルスプロモーションの実践に貢献できる。
- 保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供できる。
- 研究の基礎能力と探究心を持ち、生涯にわたって自己研鑽できる。
- 社会・環境の変化にも柔軟に対応できる。
- 高度の専門知識と技術を持ち、保健・医療・福祉の向上に貢献できる。

人材を育成するための課程修了・学位授与の基準は以下の通りです。

所定の年限在学し、研究指導を受け、所定の単位を修得し、本研究科が行う論文審査及び最終試験に合格した者に学位を授与します。具体的には、以下のレベルに到達していることを目安とします。

- (1)保健医療分野において、専門性に基づいた的確な問題の解決に向けた適切な研究に取り組むことのできる能力およびその基盤となる知識を有している。
- (2)学位請求論文は、科学的に信頼しうる結果に基づいて、明快な論旨とともに、論理的に書かれている。
- (3)研究成果を明快に提示し、質疑に対する的確な対応ができる。

### 【保健学研究科(博士前期課程) カリキュラム・ポリシー】

保健学研究科では博士前期課程に保健学専攻を設置し、看護学、放射線技術科学、及び検査技術科学の3分野を設け、ディプロマ・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。

博士前期課程の標準修業年限は2年で、30単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえで、学位論文の審査及び最終試験を行います。

- (1) 初年次に、3分野の選択必修の共通・コア科目である「ヘルスプロモーション科学」、「医療倫理学」、「国際保健学」において各種課題の検討とディベート、レポートによる評価を行い、「医療対話学」において臨床現場のシミュレーションとロールプレイにより対応能力を育て、「危機管理学」では過去の事例と対処法を学ぶことにより、社会・環境の変化に柔軟に対応でき、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供でき、保健学、ヘルスプロモーションの実

践に貢献できる高度専門職業人を育成します。「研究方法論」では最新の研究手法を学び、「特別研究」の実施により、研究の基礎能力と探究心を育て、生涯にわたって自己研鑽できる素養を育みます。

(2) また初年次には、各分野が準備する学際的な授業・演習等の履修とレポートや発表会による評価により、高度の専門知識と技術を身につけ、保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材を養成します。

(3) 助産師、がん看護専門看護師、医学物理士、ゲノム医療人の育成に特化した特別コースにあたっては、1年次から岡山大学病院、地域中核病院、および診療所での実習、演習を取り入れて実践に結び付いた教育を行い、2年間で、高度の専門知識と技術に加えて、研究の基礎能力、専門分野以外に備えておくべき知識や技能を身につけます。各分野のエキスパートが臨床的視点から、知識と技能を点数化して評価します。

(4) 1年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、2年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに発表会などで評価を行い、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。

(5) 2年間の国内外での研究成果の発表や海外でのインターンシップや研究活動を単位化して評価します。プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語による知識の習得や情報発信をサポートします。

(6) 専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

以上のような教育カリキュラムの実施によって、豊かな専門的知識と技術を基礎として、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供し、生涯にわたって変化や課題に柔軟に対応でき、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点からPDCAサイクルを実行し、SDGにつながる定期的で継続した改善を行っています。令和4年度からは、大学教育を学修者主体に向けて抜本的に質的転換し、学修者が要望するサブプログラムから構築した新体制の学位プログラムを開始する予定となっています。

### 【保健学研究科(博士前期課程) アドミッション・ポリシー】

#### 求める人材

本研究科が教育研究を通して、人間と生命の尊厳を重視し人々が健康で充実した生活を送るための医療・保健・福祉を統合した健康の推進活動に参画できる人材育成を行う上で国内外から

広く求める人物像は、以下の通りです。

- 保健・医療の基礎知識と豊かな人間性、優れた感性を持つ人
  - 人々の幸福と健康の増進に貢献しようという情熱と気概がある人
  - 協調性と柔軟な発想を持ち、将来、チーム医療の中核になれる人
  - 保健・医療・福祉、および関連分野の高度の専門知識と技術の習得を目指す人
  - 機器・技術・教育プログラムの開発に携わるため、研究の基礎能力の習得を目指す人
- 入学後の学修のため、特に以下の内容を修得していることが望まれます。

・看護学分野

看護・保健学の分野で求められる科学的思考能力や専門領域の知識や技術

・放射線技術科学分野

放射線技術科学とその関連分野で求められる科学的思考能力や研究推進能力

・検査技術科学分野

保健・医療の分野で求められる科学的思考能力やグローバル化に対応できる英語力

## 選抜の基本方針

・一般入試

筆記試験と口述試験を課しています。筆記試験では、保健医療学分野の英語課題を用い、語学力のみならず、論理構造の理解力、日本語の表現力等を総合的に評価します。専門科目の口述試験では、専門科目に関する知識、理解力やキャリアプランなどについて評価します。

・社会人入試

入学時に医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁、企業等において3年以上の専門的な実務経験を有する者を対象に、筆記試験と口述試験を課しています。筆記試験では、保健医療学分野の英語課題を用い、語学力のみならず、論理構造の理解力、日本語の表現力等を総合的に評価します。専門科目の口述試験では、専門科目に関する知識、理解力や社会人としてのキャリアプランなどについて評価します。

・外国人留学生特別入試

日本の国籍を有しない者を対象に、口述試験を課し、受験時までに習得した語学力や専門性、キャリアプラン、就学的前提となる異文化適応状況などについて、複数の教員が多面的に評価します。

## 【保健学研究科(博士後期課程) ディプロマ・ポリシー】

保健学研究科は、目標理念として「ヘルスプロモーションの実践と確立」を掲げています。この目標理念を達成するため、博士後期課程の教育理念として「インタープロフェSSIONALワーク論」を基盤とした「ヘルスプロモーションの実践と確立」を据え、保健・医療・福祉に関係した教育プロ

グラムや機器・技術の開発等を自立して研究できる能力をもつ教育・研究者を養成し、社会の要請に応えます。具体的には、以下のような人材育成を目指します。

- 保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担える。
- 保健学の実践・教育・研究を通して医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる。
- 保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる。
- 自立した研究能力を持ち、機器・技術の開発等を通して保健・医療・福祉に貢献できる。
- 柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応できる。

人材を育成するための課程修了・学位授与基準は以下の通りです。

所定の年限在学し、研究指導を受け、所定の単位を修得し、本研究科が行う論文審査及び最終試験に合格した者に学位を授与します。具体的には、以下のレベルに到達していることを目安とします。

- (1)学位請求論文は客観的公正な査読が行われている学術雑誌に掲載あるいは掲載確実の原著論文である。
- (2)掲載雑誌は、それぞれの専門分野において評価を受け、学術雑誌としての基準を満たしている。
- (3)保健医療分野において、高い専門性に基づき、主体的に研究課題を見だし、的確なリサーチクwestionsを設定し、それを検証するに相応しい適切な研究手法のもとに、研究を遂行できる能力および学識を有している。
- (4)研究成果を明快に提示し、質疑に対する的確な対応ができる。

### 【保健学研究科(博士後期課程)カリキュラム・ポリシー】

保健学研究科では博士後期課程に保健学専攻を設置し、看護学、放射線技術科学、及び検査技術科学の3分野を設け、ディプロマ・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。

博士後期課程の標準修業年限は3年で、12単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験を行います。

- (1)初年次に行う3分野共通の必修コア科目「インタープロフェッショナルワーク論」では、異分野の学生と支援教員が長期にわたり多職種連携を行い、地域の保健・医療、福祉の課題について相互にディベートし、複数の課題の探索とその解決をめざします。学生の多くは社会人で、教育施設や地域の病院に勤務する学生が多く、受講途中の複数回の評価と最終発表会に対する評価により、柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応し、ヘルスプロモーションの実践と確立に貢献し、保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に

貢献できる人材を育成します。

(2) また初年次には、各分野が準備する学際的な授業・演習等において、レポートや発表会等により評価し、高度な専門知識を習得させます。

(3) 1 年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、3 年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに発表会などで評価を行い、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。この過程を通して、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担える人材を養成します。また自立した研究能力を持ち、機器・技術の開発等を通して保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成も目指します。

(4) 3 年間の国内外での国際学会における英語での研究成果の発表や海外での研究活動やインターンシップを単位化して、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語論文の執筆を奨励し、英語能力、英語による知識習得や情報発信、国際的視野を育てます。

(5) 専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員 1 名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

以上の教育プログラムによって、国際社会の中で柔軟な発想と多角的視点を持ち、その変化に迅速に対応し、保健・医療分野の人材育成に貢献し、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担いながら、医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員 FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点から PDCA サイクルを実行し、SDG につながる定期的で継続した改善を行っています。令和 4 年度からは、大学教育を学修者主体に向けて抜本的に質的転換し、学修者が要望するサブプログラムから構築した新体制の学位プログラムを開始する予定となっています。

### 【保健学研究科(博士後期課程) アドミッション・ポリシー】

#### 求める人材

本研究科が教育研究を通して、実証に基づいた看護学・保健学の学問・研究基盤を確立するとともに、患者および家族のニーズをくみ取る感性、深い倫理観と総合的な判断力、そして高度な専門知識と実践力を備えた研究者・教育者の養成を行う上で国内外から広く求める人物像は、以下の通りです。

- 人間や物事の本質を見抜く感性を持つ人

- 多角的かつ包括的な視点と包容力を持ち、将来、医療・保健チームをリードする素質を持つ人
- 研究の基礎能力と真理への探究心を持ち、医科学やヘルスプロモーション科学の確立を進めていく可能性を持つ人
- 保健・医療・福祉分野の研究者・教育者を旨とする人
- 将来保健・医療・福祉の領域で国際的な活動・貢献を旨とする人

入学後の学習のため、特に以下の内容を修得していることが望まれます。

・看護学分野

看護・保健学の分野で求められる科学的思考能力、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力

・放射線技術科学分野

放射線技術科学とその関連分野で求められる科学的思考能力や論文執筆のための英語力

・検査技術科学分野

医科学領域で必要とされる科学的思考能力や英語論文を執筆可能な語学力

### 選抜の基本方針

・一般入試

筆記試験と口述試験を課しています。筆記試験では、保健医療学分野の英語課題を用い、語学力のみならず、論理構造の理解力、表現力等を総合的に評価します。専門科目の口述試験では、専門科目に関する知識、理解力やキャリアプラン、英語力や論文執筆能力などについて評価します。

・社会人入試

入学時に医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁、企業等において3年以上の専門的な実務経験を有する者を対象に、筆記試験と口述試験を課しています。筆記試験では、保健医療学分野の英語課題を用い、語学力のみならず、論理構造の理解力、表現力等を総合的に評価します。専門科目の口述試験では、専門科目に関する知識、理解力や社会人としてのキャリアプラン、英語力や論文執筆能力などについて評価します。

・外国人留学生特別入試

日本の国籍を有しない者を対象に、口述試験を課し、受験時まで習得した語学力や専門性、キャリアプラン、就学的前提となる異文化適応状況などについて、複数の教員が多面的に評価します。

・進学者選考

岡山大学大学院修士課程又は博士前期課程を修了見込みの者を対象に、口述試験を課し、これまで行ってきた研究内容、キャリアプラン、専門的知識、英語力などを評価します。

・O-NECUS 修了者特別入試

O-NECUS プログラム(岡山大学ー中国東北部大学院留学生交流プログラム)修了者を対象に、O-NECUS プログラムの成績(学力・意思・意欲)、書類審査、面接などにより、専門科目に関する知識、理解力やキャリアプラン、就学の前提となる異文化適応状況などについて、複数の教員が多面的に評価します。